

■男だぜ、ラインメン—夏に鍛える①

鉄の5人—北海学園大

春季オープン戦が終了したばかりの7月18日。札幌市清田区の北海学園大清田グラウンドに、北海道学生選手権で3連覇を狙う北海学園大アメフト部の選手、スタッフ50人あまりが集合し、強化練習が始まった。この日の札幌の最高気温は21.4度。猛暑は一休みだが、練習開始と同時に選手たちはみるみる汗だくになった。

ポジション別練習が始まった。グラウンドの片隅で4人の大男たちが黙々と体をほぐす。北海学園大伝統のパス攻撃を支えるオフenseライン（OL）の面々だ。ストレッチ、10ヤードダッシュ、4人が整列してスタート練習も繰り返す。1人が所用で欠席したためこの日は選手4人とスタッフ、コーチの計6人の練習。OLリーダーの鈴木悠太（3年、新潟・東京学館新潟高）が「今シーズンは最後まで5人で頑張る。1年生の補充ありません」と力強く宣言した。

Cの宿野部昂（2年、北海高）が186センチ、97キロ、Gの鈴木が185センチ、108キロ、Gの高橋大輝（2年、富山・高岡南高）が183センチ、83キロ、Tの稲葉海斗（4年、茨城・常総学院高）が175センチ、83キロ、Tの佐々木駿（3年、室蘭東翔高）が177センチ、82キロで、5人の平均は181センチ、91キロ。高橋以外は昨季も先発を経験したベテランぞろいだ。控え選手無しの「鉄の5人」だが、鈴木は「目標は、自分がサイドラインから見ていた2年前のライン」と、パインボウルで初優勝した2年前の先輩たちを引き合いに出した。

4人がヘルメットをかぶりワン・オン・ワンのブロック練習が始まった。「足の幅を取れ」「あわてるな」。ワンプレーごとに周りから檄が飛ぶ。パスプロテクションの練習ではコーチから「2歩目の反応だ。2歩目が出ればDLの動きに対応できる」と細かな指導が入った。少数精鋭を逆手に取った緻密な練習が重ねられる。一区切りしたところで、鈴木が気分転換の練習を始めた。グラウンド脇に置いてある重機用の大型ゴムタイヤを引っ張り出し、10ヤード押そうというもの。2人ではびくともしない。3人がかりでようやくタイヤが動いた。思わぬチームプレーの実践になった。

日本学生協会が全日本選手権（甲子園ボウル）の仕組みを、全国8学連のトーナメントに変更した今季。道学生選手権3連覇の先に待つ甲子園ロードに向けてラインメンたちも気持ちが高ぶる。鈴木は「伝統のパス攻撃だけでなく、DLをもっと押し込んでもっとランを出したい」と意気込む。「一人一人

が低いブロックで押し込む。パスプロの時は、しっかりとコミュニケーションを取って5人でブロックする」と、戦術は明解だ。7月10日の北海道大とのオープン戦の惜敗も格好の刺激になった。「秋に勝つために、一番成長しなきゃいけないのはOL」と鈴木。チームをしょって立つ5人の覚悟は十分だ。



息を合わせて大型タイヤを押し北海学園大のオフンスラインたち